

イベント主催者・参加者の皆様へ

イベント開催時における火災予防の徹底について

花火大会、夏祭り、秋祭り等の多数の観客等が参加する行事で火災が発生してしまうと被害が甚大となるおそれがあります。

これらのイベント等の火気器具の使用や危険物等の取扱いについては、火災予防対策が重要であり、特に、ガソリン等の危険物の取扱いには、細心の注意が必要です。

イベントの主催者及び参加者におかれましては、次の事項に留意して、イベント開催時における火災予防対策の徹底に努めていただきますようお願いいたします。

1 ガソリン等の貯蔵・取扱いに関する留意事項

＜ガソリンの特性＞

- 引火点は -40°C 程度と非常に低く、極めて引火しやすい。
- 揮発しやすく、その蒸気は空気より約3～4倍重いので、滞留しやすく可燃性蒸気が広範囲に形成されやすい。
- 電気が流れにくいため、静電気が蓄積しやすい。

＜貯蔵・取扱い時の留意事項＞

- ガソリンを取扱っている周辺で火気や火花を発生する機械器具等を用いないようにしましょう。細心の注意を払わないと容易に火災に至る危険性があります。
- 静電気による火災が増えています。金属製容器で貯蔵するとともに、地面に直接置くなど静電気の蓄積を防ぐ必要があります。また、消火器を必ず準備しましょう。
- ガソリン容器からガソリン蒸気が流出しないよう、容器は密栓するとともに、貯蔵・取扱いを行う場所は、火気や高温部から離れた直射日光の当たらない通風、換気の良い場所としましょう。特に夏場は、ガソリン蒸気圧が高くなるので注意しましょう。
- 取扱いの際には、取扱い説明書をよく読むとともに、ふたを開ける前に圧力調整弁を操作し、こぼれ・あふれ等がないように細心の注意を払いましょう。
- ガソリン使用機器は取扱い説明書をよく読んで、留意事項を厳守し、エンジン稼働中の給油は絶対にやめましょう。



ガソリンの貯蔵に適した容器の例
(金属製容器であること)



ガソリンの貯蔵に適さない容器の例
(樹脂製容器は火災危険性が多い)

2 ガスを燃料とする火気器具の使用に関する留意事項

- 火気器具は、可燃性の物品から十分な距離を保ってください。
- 火気器具は、地震等で転倒するおそれのない水平の場所で使用してください。
- 火気器具の周囲は、整理・清掃し、プロパンガスボンベ・携行缶を置かないでください。
- 使用中は、火気器具を移動させたり、燃料を補給したりしないでください。
- 火気器具は、本来の使用目的以外に使用しないでください。
- ゴムホースは、火気器具との接続部分をホースバンド等で締め付けるとともに、適正な長さで取り付け、ひび割れ等の劣化がないか点検してください。
- プロパンガスボンベは、直射日光の当たらない風通しの良い場所に設置し、鎖等で転倒しないよう固定してください。
- 消火器が設置されている場所をあらかじめ確認してください。



さいたま市消防局